

# 優秀賞（朝日新聞社賞）

## 紙人形劇団ネリノ

代表者 谷本 和子（子育て分野／宇部市）

### 活動の動機・目的

紙人形劇の制作と上演を目的に活動。「絵本の心を紙人形に託して、子どもから大人まで、たくさんの人たちに伝えたい」という願いから発足。

動きや表情のある大型紙人形劇の制作、金管楽器の共演を通して、観る人の心に響く作品を上演し、より多くの人に心から感動できる豊かな作品を伝えていきたいと考えている。

### 活動の内容

○サマージョイント公演を山口金管アンサンブルと合同で親子で参加しやすいようにずっと無料で開催。今年度6回目を上演。原作の心を伝えられるよう紙人形の表情や動きにも重点をおいて制作する。2014年は8月23日 14時～16時 フィッカルあじすにて開催。

第1部『ロボくんとことり』（原作やなせたかし）

第2部 山口金管アンサンブル演奏

第3部『チロヌップのきつね』（原作 たかはしひろゆき）金管アンサンブルと共演

○今年度は、活動範囲を拡げ訪問上演会開催。

①厚狭図書館での上演会

演目 ちゅうじょう せいこ原作『森のかんづめ』、やなせ たかし原作 『ロボくんとことり』

②宮城県気仙沼市児童養護施設『旭が丘学園』訪問公演

演目 ちゅうじょう せいこ原作『森のかんづめ』、やなせ たかし原作『ロボくんとことり』

※宮城県への訪問上演会のきっかけとなったのは、昨年上演した作品『森のかんづめ』の「著作権利用許可証」の申請をした際、原作者の中條聖子さんが、阪神大震災で亡くなったことを知ったこと。心優しい女性医師で医療の現場で病と向き合われる中、「読んだ人を勇気づけ、少しでも幸せな気持ちになってもらえたら」と勤務の合間に書きあげられた遺作。原作者の気持ちに応えようと遺族の方は一昨年末、東北3県の被災地の全小学校と全国の児童養護施設にこの絵本を約2000冊送られたとか。この制作をきっかけに、訪問上演会を決めた。その後、1年かけて準備。今でも皆さんに紙人形劇を観てもらえることができ、喜んでもらったことが信じられないくらい。真剣に観てくれた子ども達の眼差しや笑顔に感動した。

③美祢市「山中カルチャーフェスティバル」訪問上演会 ～美祢市立東厚小学校

山中地域の文化祭にゲストとして招待され、上演した。

※今年度新たな取り組みとして、上演後にふれあいタイムを設け、子どもたちが、紙人形に触れたり、動かしたりして親しんでもらい、紙人形劇を楽しんでもらっている。

### これからめざしたいこと

「子ども達が心から感動した時、子ども達は、その時点から変わっていき、前向きに進み始める。」私たちの公演がそんな『感動』との遭遇の機会になればどんなに嬉しいかわからない。そのためにも、心に響く紙人形劇の制作に努力を重ね、より内容のある公演にしていく。



サマージョイント公演  
2014



訪問公演後の  
ふれあいタイム